

群 教 セ	F09 - 01
	平 17.225集

# 学校と保護者の連携を深める 新しい保護者会の在り方

——子育て支援セミナーにおける保護者や教師へのかかわりを通して——

長期研修員 斉藤 秀一

## （研究の概要）

この研究は、子育て支援セミナーを計画・実施する過程で、保護者や教師とのかかわりから質的データを収集し、学校と保護者の連携を深める新しい保護者会の在り方についての提言を目指した質的研究である。研究の結果、学校と保護者がつながるためのポイントや、学校に新しい取組を導入するためのポイントが見えてきた。また、関連して道德の授業と保護者会を結び付けた活用例も提示した。

**キーワード** 【教育相談 子育て 保護者会 学校 連携 道德】

## 研究の基本的な考え方

社会構造の変化、少子化が進み、地域や隣近所の横のつながりは、弱体化傾向にある。そのような状況下、不登校問題改善の兆しはなかなか見えず、ひきこもりやニートも増加傾向にあり、全国的に大きな課題となっている。もはや、子育ては単一家庭の問題としてはとらえられず、地域社会で積極的に支援すべき課題となっているのだろう。

このように考えると、児童期から青年期を過ごす学校の果たす役割は大きい。各校では、PTAセミナーなどの機会を利用し、家庭の教育力の向上を目指した取組が行われている。

しかしながら、せっかくの取組は、講師の一方的な話で終わってしまったり、内容が形骸化していたりで、保護者の参加が期待するほど得られないことも少なくない。

一方で、価値観の多様化とともに、学校や担任の指導に対して疑問を持ち、電話などでの抗議に及ぶ保護者のケースを耳にすることがある。研究者自身もこれまで様々な保護者とかかわってきたが、十分にその要望にこたえていないのではないかという思いがあった。

群馬県総合教育センターでは、不登校対策支援総合推進事業を展開し、平成15年度より「子育て支援プログラム」の研究・開発を行い、「子育て支援セミナー」を実施してきた。これは、家庭の教育力を高める上で効果的であり、開催した学校の教師や参加した保護者に好評である(群馬県総

合教育センター 2004)。また、教師が実施するための「プログラム作成の手引」も提案され、教師の意識が変わる成果についても報告されている(國峯 智・武藤 榮一 2005)。

そこで、子育て支援セミナーにおける保護者や教師とのかかわりを通して、学校と家庭の連携を深める新しい保護者会の在り方を求め、研究に臨んだ。

## 研究の問い

1 学校と家庭のつながり、保護者同士の横のつながりを強くするには、どうしたらよいのだろうか。

「来て欲しい親ほど来てくれない」このような言葉をよく耳にする。親が来やすい学校にするために、子どもを支える学校と家庭のつながり、保護者相互のつながりを形成していくには、何が求められているのか、どのような工夫が必要なのかを明らかにする。

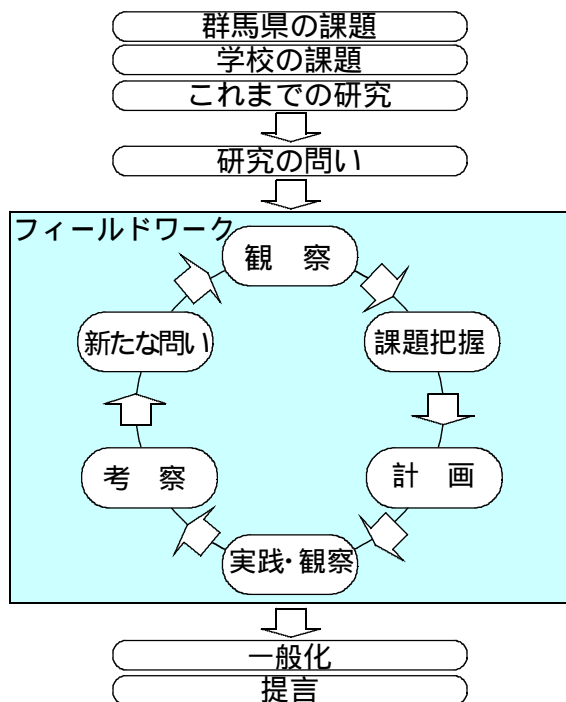
2 教師が本当に使いやすいプログラムにするには、どうしたらよいのだろうか。

学校が多忙化している状況では、教師が新しいことを求めじっくり取り組むことが難しくなっている。そのような状況にある教師が「これならやってみようか」と思えるようにするには、どのような工夫や留意点があるのかを明らかにする。

## 研究の手順

「モデル構成的質的研究の手順」(奥山 隆・懸川 武史 2004)を参考に、次のような手順で、考察から新たな問いを見いだしながら研究を進めた。

図1 研究の手順



### 実践に入る前の観察

研究に入るにあたり、次の問いを立て、子育て支援セミナーの実践の様子を観察した。

子育て支援セミナーは、なぜ保護者に好評なのだろうか？

高崎市立高松中学校・吉岡町立明治小学校  
安中市立安中小学校

#### 1 見えてきたこと

実態を踏まえ保護者の視点に立ったプログラムを作成することにより、保護者の共感が得られること。

緊張がほぐれるゲームなどを取り入れることにより、保護者は自分の思いを表現できるようになること。

自分の思いを話し、他人の考えを聞くことにより、保護者に新たな気付きが得られていること。

保護者はこのような機会を望んでいること。

## 2 新たな問い

保護者はどのような思いで子育てしているのだろうか。また、教師は保護者に対してどのようなことを期待しているのだろうか。

保護者は、学校にどのようなことを求めているのだろうか。

### 聞き取り調査による課題把握(実践1)

置籍校の保護者と教師を対象に聞き取り調査を行った。(中之条町立中之条中学校)

#### 1 保護者への聞き取り調査

お子さんの子育てにかかわって、どんなことが気になってますか。

「疲れていそうな子どもを見て、つい心配になりいろいろ言ってしまうと、うるさいと言われてしまい、難しいなと感ずることがある」

「携帯電話を欲しがっている。友達とメールがしたいようだが、与えてもよいのだろうか」

「返事をするのも面倒くさそう。こちらからの一方的な話ばかりで、会話にならない」

「うそをつくことがあり、子どもの言っていることが本当なのか信じられないことがある」

このように、これまでのように思い通りにならなかった子どもに、不安を感じ、悩んでいる保護者の姿が見えてきた。

#### 2 教師への聞き取り調査

クラスや学年の親に対してどうなってほしいと思っていますか。

「社会的常識、あいさつ、言葉遣いなどは、学校に頼らず家庭で指導してほしい」

「年々子どもが幼くなっていると感じる。親が子どもと会話を十分しているのだろうか」

「学校と親が互いに支え合うことが大切。通信などを通して学校の方針を理解し、授業参観に来て教師と情報交換してほしい。学校側も親が来やすくなる努力が必要である」

このように、あいさつや言葉遣いなどの礼儀・作法を身に付けることや、親子の会話、学校と家庭との連携を望んでいる教師の姿が見えた。

#### 3 考察

聞き取り調査から次のことが見えてきた。

保護者は、思い通りにならなかった子ども

へのかかわり方に悩み、支援を望んでいること。  
 保護者は、我が子が今何を考えているのか、  
 知りたいと思っていること。  
 子育てに悩んでいる保護者に近づき支援して  
 いくことが教師に求められていること。

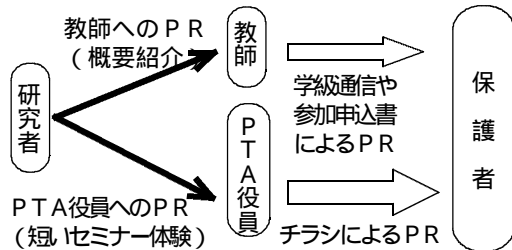
#### 4 新たな問い

好評を得ている子育て支援セミナーのよさを  
 伝えるには、どうしたらよいのだろうか。  
 保護者同士の横のつながりを深めるには、ど  
 うしたらよいのだろうか。

#### 第1回子育て支援セミナーの計画とPR (実践2)

実践1から、思春期をむかえた子どもへのかか  
 わり方に悩む親の姿が見えてきたため、そのこと  
 をテーマにした子育て支援セミナーを実施する計  
 画を立てた。また、子育て支援セミナーを多くの  
 保護者や教師に知ってもらうため、図2のような  
 構想を立て、PRを行った。

図2 PRの構想図



#### 1 教師へのPR

子育て支援セミナーの概要を提示しながらPR  
 を行った。以下は、教師から得られた感想である。  
 「親の反応がとてもよく驚いた。親同士で話すこ  
 とですっきりするのだろう」  
 「懇談会は教師からの連絡中心でマンネリ化して  
 いる。新しい取組として面白い。教師のかかわ  
 りや内容について詳しく知りたい」  
 このように、保護者に支援していく、新しい試  
 みとしての価値に気付いた様子が分かった。

#### 2 PTA役員へのPR

セミナーの概要を提示するほか、部分的に体験  
 していただき、PRを行った。  
 「今まで先生のお話や学校での様子を聞くのが主  
 でしたが、自分の家庭や子どものことを話すこ

とで、共感でき参考になることが多かったと思  
 います」

「寸劇は自分の家庭を見ているようで、何が問題  
 なのか客観的に考えられました。このような機  
 会を得られてよかったです」

「さわりの部分でも、十分実のある内容でした。  
 皆さんにたくさん広めたいと思います」

「このような実践をすると、保護者の意識が変わ  
 って、保護者同士のつながりが広がる」

短い時間だったが、役員の方は子育て支援セ  
 ミナーのよさを実感し、会員に伝えたいと感じた様  
 子がうかがえた。

#### 3 チラシやコラムによるPR

教師には、学級通信掲載用にコラムを作成し、  
 保護者へのPRをお願いした。(資料 参照)

PTA役員には、チラシを配付し、知り合いへ  
 の紹介をお願いした。(資料 参照)

図3 PR用に作成したチラシ(一部分)



#### <チラシの工夫点>

今までと違う新しい取組であることを保護者  
 に伝えるため、「新しい保護者会」と名付けた。  
 保護者に好評であることを伝えるため、参加  
 者の感想を入れた。

#### 4 考察

教師や保護者へのPRの結果、以下のようなこ  
 とが見えてきた。

教師へPRするには、取り組む価値が感じら  
 れるような提示をしていくことが大切であるこ  
 と。

新しい取組を伝えるには、体験できる機会を  
 設けた方がより深く伝わること。

保護者同士が共に活動する場を設けること  
 が、横のつながりを生み出す機会となること。

## 5 新たな問い

どこでもだれが行っても、保護者の好評を得ることができるのだろうか。

保護者はどんなきっかけで、何を期待して学校に来るのだろうか。

### 第1回子育て支援セミナーの実施(実践3)

思春期をむかえた子どもへのかかわり方に悩む親の姿は、地域性は異なるが、高崎市立高松中学校保護者と同じであった。そこで、同じテーマでの実施を試みた。(資料 参照)

#### 1 参加した保護者の感想から

保護者からは、以下のような感想が得られた。

「話を聞くだけとっていたので、びっくりしました。新鮮な形式でした」

「聞くだけのつもりでしたが、思いがけず自分の気持ちを話し少し動揺しています。とてもいい経験ができ、自分を見つめることができました」

「一緒のお母さん方からもいろいろと大事なことを教えてもらいました。これからの生活の中で、私自身が変わっていける気がしました」

「さなぎの時期という言葉になるほどと思いました。もう少し子どもを信じ、受け入れようと思いました」

「とてもよかったです。もっとこのような保護者会があることを期待しています」

このように、保護者からは参加してよかったという感想が得られ、高崎市の中学校とほぼ同様であった。

#### 2 参加したきっかけについて

参加のきっかけについて、保護者へ尋ねた。

図4 参加したきっかけ

今回参加したきっかけは？	
・お知らせを見て面白そうだったので	64%
・知り合いに誘われたので	18%
・反抗期で参考になればと思ったので	12%
・仕事が休みだったので	6%

案内を見て面白そうと感じた保護者が多く、PTA役員に誘われて参加した保護者も多かった。

## 3 考察

実践3から、以下のようなことが見えてきた。

保護者の思いに沿ったものを提供すれば、実施者や地域に関係なく、同様の成果が得られること。

中心となる人に声をかけ、協力を依頼することが、何かを広めるときに効果的であること。

保護者に魅力を感じてもらうには、面白そうと思える内容が必要であり、さらに、言葉や図で分かりやすく提示することが大切であること。

## 4 新たな問い

保護者が本当に行ってみたいと思うPRをするには、さらにどんな工夫ができるのだろうか。

保護者が本当に行ってみたいと思う保護者会の内容には、どのようなものが必要なのだろうか。

### 第2回子育て支援セミナーの計画とPR(実践4)

どんな内容のものを提供すれば保護者が本当に行ってみたいと思えるのか、内容を検討し、それを効果的にPRするための工夫も行った。

#### 1 本当に行ってみたいと思える内容の検討

保護者が一番引きつけられる内容はどんな内容か検討し、以下のような計画を立てた。

##### (1) 我が子の本当の心が分かる内容

保護者は我が子が何を考えているのか十分には分からず、本当の心を知りたいと思っている(実践1)。そこで、我が子の心が親に感じられるプログラムにすることが、本当に行ってみたいと思えることにつながると考えた。

##### (2) 子どもも保護者も自分を見つめられる内容

保護者が我が子の心を共感するには、親子が同じ立場に立てるテーマが必要であり、子どもの本音が表せる場が必要である。そこで、両者が同じ立場に立てる家族をテーマとし、子どもが学ぶ場として道徳の授業を選んだ。

#### 2 本当に行ってみたいと思えるPRの工夫

保護者の興味・関心をより高めるために、前回の概要を知らせる通信(図5)とチラシ(図6)を作成した。その際、以下の点に配慮した。

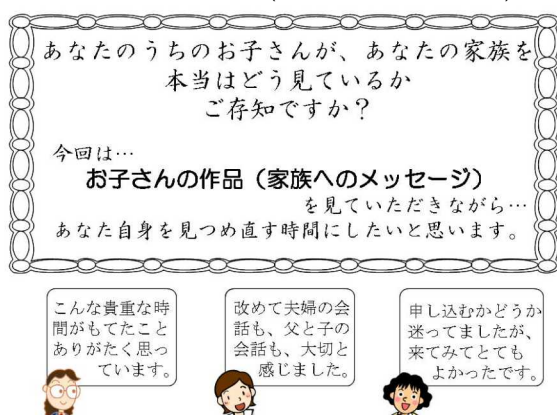


- (1) 「もっと知りたい」気持ちになれる紙面づくり  
「あなたならどうしますか」と読者に直接問いかける見出しにする。  
問題を投げかけ、読者が考えられるような資料の提示をする。
- (2) 「ぜひ行きたい」気持ちになれる紙面づくり  
参加して満足した保護者の感想を載せる。  
次の予告と、知り合いに声をかけて参加しようとする保護者の声を提示する。
- (3) 「これなら行きたい」気持ちになれる紙面づくり  
「本当に知りたいと思うことが得られること」を中心に伝える。保護者に直接問いかける。

図5 通信の一部分(詳細は資料 参照)  
あなたならどうしますか?



図6 チラシの一部分(詳細は資料 参照)



### 3 PRの効果について聞き取り調査

PRの効果を確認するため、合唱祭に来た保護者に聞き取り調査を行った(資料 参照)。

また、保護者会への要望を聞いたところ、以下のような声があった。

- 「先生方とフレンドリーに話したい」
- 「表面的でなく、つっこんだ話ができればいいな」
- 「結論が出ないことが多く残念」

### 4 考察

聞き取り調査から、以下のようなことが見えてきた。

チラシをすぐに見た保護者はおよそ6割で、その内のおよそ8割が、チラシに興味を引かれ、参加したいと思っている。

興味を引かれるポイントとして、「我が子が家族をどう見ているか分かる」が最も多く、「子どもの様子を知りたい」と合わせるとおよそ半数になる。我が子の思いや様子が見える内容にすることが、保護者が「本当に行ってみよう」と思えることにつながると考える。また、「ほかの保護者の意見が聞ける」こと、「面白そうと感じる」ことも大事な要素であることが分かった。

要望から、教師と親しく話し話すことを望んでいる保護者の姿と、得るものがない保護者会を残念に思う保護者の姿が見えた。「我が子の思いや様子を知りたい保護者」にかかわる教師の意識の改善と、保護者会そのものの内容を改善していく必要性を感じた。

### 5 新たな問い

「我が子が家族をどう見ているか分かる」ために行う道徳の授業で、生徒は家族の一員としての自分を本気で考えることができるだろうか。

家族を図に表す子育て支援プログラムは、思春期の子どもが家族の中の自分を見つめることにも効果的に機能するだろうか。

#### 家族をテーマにした道徳の授業の実施(実践5)

「我が子が家族をどう見ているか分かる」保護者会につなげるため、生徒が自分の家族を図に表し、家族の一員としての自分を考える道徳の授業を行った。

図7 内容項目と主な展開(資料 参照)

<p><b>内容項目</b>          父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。          [中学校学習指導要領 内容項目 4-(6)]</p> <p><b>主な展開</b>          自分の家族のイメージを図に表す。          自分は家族の中でどうなればいいのか考える。          自分自身がこの家族の中でこれからできることを考える。</p>
--

#### 1 生徒の感想から

授業は、担任教師とのTTで全4クラスで行っ

た。描いた図を保護者に見てもらうことは、生徒が図に描く前に了解を求めた。生徒からは、以下のような感想が得られた。

「家族への思いが変わった気がする。母と話すのを面倒くさいと思ってしまっていたので、直したい。音楽が流れていたのもよかった」  
「こんなに家族について考えたことはなかった。犬ばかり見ていて家族を見ていなかった。もっと家族を見て家族の気持ちを考えていきたい」  
「もっと自立し、家族に見守られる立場から家族を支えられるようになりたい」  
「家族は思いやりをもちながら、少しずつ少しずつ積み重ねて行くものなんだなと思った」  
このように、家族の一員としての新たな自覚をもった感想が数多く得られた。

## 2 教師(T2)の感想から

授業をふり返り、教師に意見・感想を求めた。  
「生徒がじっくり考えられた。BGMによって静かに考える雰囲気できていた」  
「生徒はまとめの話もよく聞いていた。家族のことを本気で考えているのだなと思った」  
「思いがけない図を描いた生徒もいて、見方が広がった。この図はすべての親に見せてあげたい」  
このように、教師からは、道徳の授業として成果が得られたという感想と、生徒の実態に応じた細かな支援の必要を感じた意見が得られた。

## 3 考察

授業実践から、以下のようなことが見えてきた。  
家族を図に表し考えることは、生徒が家族の一員としての自分を見つめ考える有効な手だてとなり、道徳的なねらいがほぼ達成できること。

## 4 新たな問い

我が子が描いた家族図を見ることは、本当に保護者に有効にはたらくのだろうか。  
どのような内容や形式のものを提示すれば、新しい取組でも教師に分かりやすく伝えられるのだろうか。  
教師が保護者に近づくためには、さらにどのような点に配慮すればよいのだろうか。

### 第2回子育て支援セミナーの実施(実践6)

我が子が道徳で表した図を見るプログラムで、

第2回の子育て支援セミナーを「新しい保護者会」として実施した。展開案は教師が使いやすい形式を探るため、通常と異なる形式で作成した。

図8 テーマと主な流れ(詳細は資料 参照)

我が子と家族の関係について考えよう  
保護者自身の家族のイメージを図に表す。  
できた図を我が子の立場から見て、考える。  
実際に我が子が描いた図を見て、我が子が思っている家族の姿に触れる。  
家族へのかかわり方をまとめる。

### 1 展開案の検討から

道徳の指導案と今回の展開案について、分かりやすさの視点から教師に感想を聞いた。  
「普通の指導案と形式がちがっているが、分かりやすい。専門的な言葉は分かりにくい」  
「流れは分かるが、保護者の意見に対してどう言葉を掛けるか、最後のまとめの話をどのようにするのか知りたい」  
このように、専門用語に対する苦手意識や、保護者への細かい部分での配慮事項や、自分がイメージできない部分への疑問点が出された。

### 2 参加した保護者の様子と感想から

どの保護者も子どもの描いた図を視線をそらさずにじっと見つめ、何か深く考えている様子だった。また、見ただけで涙を流す保護者もいた。  
「子どもの気持ちが見られたようで、すごく気持ちが洗われた思いです」  
「私の心の中を見せられた気がします」  
「家族の結びつきは、当然あるものと思ってましたが、もう一度見直していかなくてはいけないと強く感じました」  
「今、この時間をつくっていただいたことに感謝します。ほかの方々にもぜひ来て欲しいです」  
このように、子どもの心に触れられて感動したという感想が得られた。

### 3 参観した教師の感想から

教師には、自分自身でセミナーを行う視点で参観していただいた。以下のような感想が得られた。  
「資料はそろったし流れもしっかりしているので自分にもできると思うが、保護者への受け答えは自信がない。具体的な対処法や話の例が欲しい」  
「指導案だけでは、教科指導のようなイメージが

持てないし、雰囲気も伝わらない。ビデオなどもあるといい」

「話し方が勉強になった。押しつけがましくなくていい。親も話しやすいだろう」

「保護者を前面に出すまとめ方は、保護者の心が開かれる。参加者に歩み寄って、同じところに行き話をするイメージで、上から話をしていない」

「自分の子どもの心が見られるので、価値のある実践と思う。もっとほかの親にも見せたい」

「心配がなさそうな子どもの母でも、悩みがあることが分かり、見方が広がった。そういう意味でも実施する価値を感じた」

#### 4 考察

第2回子育て支援セミナーの実践から、以下のようなことが見えてきた。

子どもの心に触れられることは、親にとって最大の関心事であり、このような機会を子どもの理解を得て行っていく価値が十分あること。また、教師にとってもこの内容の取組は実践する価値が感じられること。

保護者は、自分を見てくれていると感じる教師に、自分の思いを話すこと。保護者に歩み寄り、教師自らかかわることで、保護者は心を開くこと。教師がかかわるとき、保護者と同じ目線で話し、しっかり聴く態度が重要であること。

教師に分かりやすくするためには、専門用語を避けるとともに、親の反応や親への支援例などの実践を通して得られた細かな配慮事項を入れた指導案の形式が馴染みやすいこと。また、具体的なイメージがもてるための映像やガイドブックが必要であること。

研究者は、研究を通して得られた様々な記録（一次データ：感想や発言などの情報）を、「つながる」「使いやすさ」の視点から再度検討し、新たな記録（二次データ）を得た。さらに、こうして得られた二次データをKJ法により分析した。そのような過程を経て見えてきたことを以下に提言する。

##### 学校と保護者がつながるために(提言1)

学校に保護者が集まる要素として、次のようなことが必要であることが分かった。

#### 図10 学校と保護者がつながるために

- 今の我が子が見えること
- 今までにない新しい学びが得られること
- 保護者が安心できること
- 教師を近く温かく感じられること
- 保護者が魅力を感じられるPRをすること

以下、それらについて具体的に述べる。

##### 1 今の我が子が見える

保護者は、我が子のことを心から知りたと思っている。そのような内容を示すことが大切である。

###### (1) 我が子の本当の心が見える

ある学校の子育て支援セミナーでは、子どもの作品（自分の家庭をどのように見ているか簡単に図に表したもの）を見ただけで、涙する保護者の姿があった（資料 参照）。このように、保護者は我が子の本当の心を知りたいのである。我が子が「今何を感じどんなことを考えているのか」それを知ることにより、保護者は深く学ぶことができる。

###### (2) 家では見られない我が子が見える

ある学校の子育て支援セミナーでは、子どもの感想を読み、次のように感慨深く述べた母親がいた。「自立への強い思いを感じました。もう少し接し方を考えていきたい」

この保護者は、家では聞けなかった我が子の思いを知り、我が子の成長を感じ心が動かされた。

このように、保護者は我が子の本当の思いや考えを知ったり、ふだん家庭では見られない我が子の様子を知ったりすることで、多くのことに気付く。我が子の成長を実感し、これまでの子育てを振り返るからと考える。運動会に多くの保護者が来校するのは、一生懸命に競技する我が子を見て、その成長を実感できるからだろう。

##### 2 今までにない新しい学びが得られる

学校に行っても何も得られなければ、期待はずれに終わってしまう。来てくれた保護者が学びを実感できる場や機会を提供することが大切である。

###### (1) 欲しかった知識が得られる

子育て支援セミナーでは、次のような感想が得られている。

「さなぎの時期という言葉になるほどと思いまし

た。もう少し子どもを信じ、受け入れようと思います」

「髪の毛やスカートなど、子どもの表面的な事柄に振り回され、根本的なことを忘れていた気がします。大事なことを見逃さないようにしたいです」

このように、保護者は今すぐ役立つ知識や、今時の子どもへの接し方を知りたいと思っている。例えば入試にかかわる保護者会は、多くの保護者が集まる。必要とする新しい知識が得られるからと考える。

#### (2) 新しい見方に気付ける

子育て支援セミナーでは、保護者同士話し合う中で、新しい見方に気付いた感想が得られている。「ほかのお母さんの子どもへの対応や、母同士のつきあい方にはとつする瞬間がありました。心にゆとりがある対応は参考になりました」「子どもの生き方が自分の生き方になってしまっている部分があったような気がしました」

このように、保護者は自分自身が成長できるような、新しい見方や気付きを求めている。保護者の視野を広げるためにも、保護者同士で意見交換する場を設けることが大切である。

### 3 保護者が安心できる

保護者は忙しい日々の生活に追われ、自分一人が悩んでいると思っている。そんな保護者が安心できる場と時間を提供することが大切である。

#### (1) 安らぐ場がある

例えば子育て支援セミナーでは、静かな音楽を流し、柔らかく話しかけ、保護者が安心できる場をつくっている。保護者からは、次のような感想が得られている。

「ゆったりとした話し方で、心が落ち着きました。

子どもに話をするときには、ゆったりと話したいと思います」

「リラックスした雰囲気の中で考えることができとてもよかったです」

#### (2) 横のつながりを感じられる

保護者は、子育て、家庭、仕事と、多忙であり、悩みを抱えていることが少なくない。子育て支援セミナーでは、安らげる場で保護者同士話し合うことにより、悩みから解放され、楽な気持ちになった保護者の姿が見えてきている。

「自分の気持ちを話して動揺しましたが、皆同じ心配をしていることが分かり、安心しました」

「同じように悩んでいるお母さんたちに会え、話ができ本当によかったです。自分の子どもばかりが反抗しているように見えていました」

#### (3) 受け入れられ認められる

だれでも否定される場には行きたくない。受け入れられ認められる中で、自分自身を見つめ直すことができたとき、保護者は学校に来てよかったですと感じる。

「子どもの気持ちを考えているつもりでも、毎日の生活に追われ後回しになっていました。受け入れられじっくり考えられる時間をつくっていただき有り難く思います」

「今まで頭では分かってはいても気持ちが受け入れられずにいましたが、新たに考え直すことができました」

### 4 教師を近く温かく感じられる

教師が親につながろうとする姿勢をもつことで、保護者は学校を身近に感じ、親しみを覚える。このような教師の姿勢が大切である。

#### (1) 近く感じられる

子育て支援セミナーを観察した教師の声から、保護者に寄り添う教師像が見えてきた。

「始まる前、保護者と何気ない話をしている姿を見ました。始めの堅苦しさやぎこちない雰囲気やを和らげるためにも、私たちも見習いたい」

「『一生懸命考えてくれて有り難い。』と、来てくれた保護者を前面に出すまとめ方は、保護者の心が開かれるので参考になった」

保護者に歩み寄り、自らあいさつをし、自然にかかわれること。

上から話すのではなく、同じ目線から話す、気楽に話せる存在であること。

保護者の意見を聞き、取り入れ、一緒に考える姿勢であること。

#### (2) 温かく感じられる

セミナーを観察した教師の声から、同様に温かく感じられる教師像も見えてきた。

「一人一人と会話しながら、『どうですか。』と聞いていた。これで、私を見てくれている、私のことも思ってくれていると感じただろう」

「温かい感じ。言いやすい雰囲気。今までと違うので、保護者は発言しやすかっただろう」

一人一人の保護者が自分を見てもらっていると実感できるように接すること。

丁寧に誠実に応対し、困ったときに頼れると



感じられること。

(3) 分かりやすく伝えてくれる

さらに、保護者や教師の声から、分かりやすく伝えられる教師像も見えてきた。

「先生方の話し方は、とても柔らかく分かりやすくてよかったです。経験に基づくお話もうなずけることが多かったです」(保護者の声)

「抑えた声量で押しつけがましくない話し方は勉強になった。教師はどうしても初めが強い説教調になりがちだが、そうじゃなくていい」(教師の声)

保護者一人一人にゆっくり語りかけるように話すこと。

経験と絡めて説明すること。

分かりやすい言葉を使うこと。

5 保護者が魅力を感じられるPRをする

保護者に来てもらうために、チラシなどでPRを行い、行ってみたいと感じられるイメージづくりをする必要がある。

(1) 目に留まりやすい工夫がされている

保護者への配付物は、目に留まり、読んでみたいと思えるような、引きつける工夫をしたい。

ネーミングの工夫：「新しい～」など、いつもと違う面を強調すること。

キャッチフレーズの工夫：「子どもが本当は～」など、保護者が本当に行きたくなる内容を魅力的な言葉で示すこと。

保護者の感想：「行ってよかった」などの生の声を入れ、期待がもてるようにすること。

(2) 見やすく分かりやすい工夫がされている

保護者への配付物は、見やすく一目で分かる工夫もしたい。

レイアウトの工夫：イメージづくりにつながるので、絵や図を入れ文字を減らし、目に留まりやすく、分かりやすくすること。

簡潔にする工夫：一目見て、伝えたいことがわかるような簡潔な表現にすること。

(3) 行けそうと思える方法の工夫

時間や場所などを考慮して、保護者が行けそうだと思う方法でPRしたい。

役員など学校と保護者をつなぐことのできる人にPRしてもらう。

保護者が参加しやすい時間にするなど、保護者の立場に立って設定する。

学校に新しいことを取り入れるために(提言2)

新しいことを学校に取り入れる(教師がやりやすいと思える)要素として、次のようなことが必要であることが分かった。

図11 学校に新しいことを取り入れるために

- 新たに取り組む価値を実感できること
- 思考に沿って提示されること
- サポートが得られること
- だれでもどこでもできると感じられること

以下、それらについて具体的に述べる。

1 新たに取り組む価値を実感できる

教師が新しいことに取り組む意欲をもつためには、新たに取り組む価値を実感できることが必要である。

(1) 成果を得られる可能性を感じられる

「これほど反響があるのなら、これからもっともっと広めていけたらと思います。自分も詳しく内容を知りたいと思いました」(教師の感想)

このように、今まで必要と感じていたができなかったことに対して、具体的な成果が得られる可能性が見えることが必要である。例えば、子どもや親の変容が得られること、教師自身の学びが得られることを示すことが大切である。

(2) できる見通しがもてる

「資料がそろって、流れがしっかりしているし、様子も分かったので、自分で流れや生徒の反応などを確認しながら実施できるだろう」

このように、自分のかかわり方や、子どもや保護者の反応が予想でき、始めから終わりまでの流れを把握し、できる見通しがもてることが必要である。例えば、映像を交えて示すと、具体的にイメージしやすくなり、見通しが立てやすい。

2 思考に沿って提示される

教師は、自分のかかわり方とそれに対する子どもの反応を予測して授業を行うので、そういった思考に合った提示をすることが大切と考える。

(1) 指導案形式で示されている

例えば、教師が新しい授業を計画するとき、指導案を基に考える。そして、始めから終わりまでの流れが見えると、自分が役割をどうこなすか予想しやすくなる。教師に示すには、馴染みのある

指導案形式が分かりやすく、有効である。

#### (2) 何をどう指導・支援するか具体的に示す

新しいことを行うとき、不安はつきものである。指導・支援する役割にある教師は、相手の反応を意識することが多い。したがって、不安を解消するためにも、ねらいや発問の具体例を示すとともに、予想される相手の反応や、それに対する具体的な支援例を示し、それらを流れに沿って確認できるようにすることが大切である。

### 3 サポートが得られる

新たに自社製品を広めていく企業が、サポート態勢を充実させているように、新しいことを取り入れていくとき、利用者への支援は重要である。学校に新しいことを取り入れていくときも同様に、教師への支援の充実が必要と考える。

#### (1) 協力者が得られる

セミナーの実施を依頼したとき、「一人では不安だが、TTなら…」という教師の声があった。このように、協力者が得られると心強くなる。不安であれば最初から一人ではなく、必要に応じて協力できる態勢を整えることが大切である。

#### (2) 体験的に研修できる

教師にセミナーを紹介した時点では「とても興味を引かれた。ぜひ体験してみたい」「具体的にどんなことを行うのか、もう少し聞きたい」という感想だった。しかし、その後セミナーを体験してもらったところ、「自分でもできそう。流れや参加する人がどんな気持ちになるのか分かったから」と、実施への気持ちがよりはっきりした形の感想が得られた。

このように、新しいことに取り組むには、体験的に学べる機会が必要と考える。取り組む姿勢や雰囲気など、より具体的な事柄を伝えられるため、教師はどう指導すればよいか見通しが立てられるとともに、取組の価値を実感できるからである。

#### (3) ガイドが得られる

ある学校の教師は、自分でセミナーを実施するとき、経験者に様々な質問をし、細かなアドバイスを受けていた。このように、新しい取組を広げていくとき、不安の答えを導いてくれるガイドが必要と考える。すでに実践した人の感想やその映像記録は、よりよいガイドとなる。

### 4 だれでもどこでもできると感じられる

新しいことを取り入れていくには、教師の経験

や学校の規模に関係なく、教師が手軽に取り組めることが大切である。

#### (1) 専門性を必要としない

セミナーをPRしていく中で、「技術や経験がないから難しい」「保護者の思いを広げられるようなことができるだろうか」という不安の声があった。新しい取組を広げていくとき、専門的な知識や技能が必要では、普及の妨げとなる。

特別な知識や技能を必要とせず、日ごろの授業や活動と同様にできることが大切である。

#### (2) だれでも同じ成果が得られる

普及のためには、示された手順で行うと、だれがやってもほぼ同じ成果が得られることも大切である。子育て支援セミナーは、参加者が互いに話すことを通して自ら学べる構成であるため、初めての教師でもほぼ同様の成果が得られている。

#### (3) どこでもできる

同様に、地域や学校規模、さらに、参加人数に関係なく実施できることも大切である。子育て支援セミナーは、県内様々な地域の学校で実施するとともに、PTA研修や学級PTAなど、多様な形態でほぼ同様の成果が得られている。

### まとめと今後の課題

#### 1 まとめ

研究の結果、以下のことが分かった。

学校と家庭の連携を深めるためには、保護者と教師が共に学ぶ保護者会が求められていること。そのためには、我が子の心やふだん見えない姿が見えたり、新たに学べたり、安心できたりすることが必要であること。

何か新しいことを取り入れるには、相手がイメージしやすく、相手の思考に沿って、適切な支援をしながら、だれでもどこでもできる普遍性を備えて提示する必要があること。

#### 2 今後の課題

今後の課題として、以下のことがあげられる。

保護者と教師が共に学べる保護者会を新たに計画・実施していくこと。学校において、教師と協力しながら具体的な実践を積み重ねたい。

主な参考文献（資料 参照）

（担当指導主事 武藤 榮一）